

すべての人が人間として尊ばれ、生きがいを持ち、心豊かに、安心して安全に暮らせる長寿社会の実現

認知症の方ご本人と介護者を対象に、「認知症の人と家族の実態調査 心の声アンケート」を行いました。認知症の方ご本人や家族の思いを「私のメッセージ」としてご紹介します。

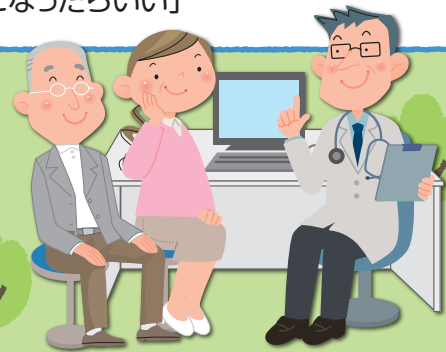


## 認知症の人と その家族の思い

### 9つの私のメッセージ

#### 1 認知症に対する周囲の理解

本人「近所の人たちや友人には、ちょっとした優しさや思いやりがあると嬉しい。病気の症状も理解してほしい」  
 家族「家族だけで介護を抱え込まずに済む地域だといいな。みんなで気にかけてくれるまち」  
 「母のような認知症の方が集まれる場所や地域の方が認知症を理解して支え合える地域になったらいい」



#### 2 早めの受診と治療

本人「病院では、治療や進行を防ぐ方法があるのか相談する」  
 家族「最初に受診したものの忘れ外来では、『年齢だからそうなる、仕方がない』との回答が多く、より不安が高まった」

#### 3 切れ目のない医療と介護

本人「私は困っていることをうまくまとめて医者には言えない。話をしたいと思うが、うまく話せない」  
 家族「(病院には) 対応の仕方や支援体制などを紹介してほしい。自分たちで包括に相談して、サービス開始となったらよいのだけれど…。(そうなるような状況ではない)」



#### 4 地域の一員としての社会参加

本人「新聞店での仕事を行い、社員に声かけや感謝をしてもらったときが嬉しい」  
 「近所の方が気にかけて顔を見に来てくれる。おかずのおすそ分けもお互いしている」

#### 5 趣味とレクリエーション

本人「月に2回、合唱サークルに参加している」  
 「1年中野菜を作っている。家族で食べる分だけ、渡すのが楽しみ」  
 「自分の作った料理を食べておいしいと言ってもらえた時や趣味で作っている編み物が完成し、それを人にプレゼントして『ありがとう』と言ってもらえた時が嬉しい」

#### 6 家族の協力と理解

本人「いつでも夫が側にいてくれることが支えになっている。自分のことを1番理解してくれる人。だから言いたいことを私は言うんだ。黙ってばかりいるより話をして夫にわかってもらいたい。でも私が悪いと思う時もあります」  
 「協力してくれるのは娘と義理の息子。でも娘はまだ働きたい。娘が仕事を定年になるまで頑張って負担をかけないようにしたい」  
 「旦那さんに誘われて出かけることがうれしい」  
 「奥さんに迷惑をかけないように健康でいることが励みになっている」

#### 7 最後まで尊重された生活

本人「買い物に行っても違うものを買ってくる。出かけると行先と違うところへ行ってしまう、戻って来れないなど、自分でもわかっている」  
 「自分でやれることはやらせてほしい」  
 家族「認知症(は何もできないという)扱いはしてほしくない。できることはまだまだある」

#### 8 身近な相談場所と安心できる居場所

本人「家族や地域包括支援センター」「担当ケアマネ、通所介護の職員、婦人会の仲間、同級生、家族は最後に相談する」  
 「見守られているからこうしていられると思う。でももう隣の奥さんの顔もどんなだったか思い出せないんだ」  
 「自分のことを考えてくれるのは分かる。みんな優しい」「いません」



#### 9 若年性認知症の理解

本人「(50代前半のとき) もの忘れがひどくなり職場の上司に受診をすすめられた。産業医に相談し、受診した。デイケアに毎日来ている。スタッフの人がとても良くしてくれる。地域の草むしりは自分が行く。その時、皆さんと雑談する。声をかけられるのは嬉しい」

